

中学校完全給食の実施

(全校実施：平成29年12月)



川崎市では、これまで小学校での完全給食は実施してきましたが、中学校では、長い間、家庭からの弁当を基本とするミルク給食を実施してきました。一方で、全国的には中学校での完全給食を実施している地域は多く、川崎市でも子どもを持つ市民からの要望が高まってきたことから、市議会からも、中学校完全給食の実施に向け働きかけてきました。そして、平成29年12月、全ての市立中学校で完全給食が始まりました。

中学校完全給食の導入が決まるまで

昭和38年以降ミルク給食を実施する中、市当局では、これまでも完全給食の実施に向けた検討がされていました。昭和44年には「中学校完全給食調査委員会」を設置し、推進するとしたものの実現には至らず、その後も、同様の調査委員会が開催され、川崎市の中学校給食のあり方や方向性について検討が重ねられました。

<市議会の動き>

- 市議会でも幾度か取り上げられ、行政当局の見解を質してきました。また、実施を求める市民の方々から、「請願」や「陳情」が市議会議長宛てに提出され、その取扱いを巡り、様々な立場から議論を行ってきました。
- 平成23年3月には、中学校完全給食の早期実現を求める決議案を、全ての会派が共同で提出し、全議員の賛成により可決しました。川崎市議会全体の意思として決議することにより、行政当局に実施を強く働きかけることとなりました。

中学校完全給食の早期実現を求める決議

平成21年5月1日現在、全国の公立中学校での完全給食の実施率は81.6%であるが、中学校での完全給食に踏み出す地方自治体は更に増えている。

当時、都道府県別の実施率で一番低かったのは大阪府の7.7%であるが、大阪府は、全ての公立中学校で完全給食が実施できるよう、政令指定都市を除く未実施の234校の施設整備について、平成23年度からの5年間の総額で最大246億円を補助することを

明らかにした。

さらに、大阪市でも平成25年度から市立中学校128校全てで学校給食を導入する方針を固めたことから、政令指定都市で完全給食が実施されないのは、本市のほかに横浜市、堺市及び神戸市だけとなる。

一方、本市における中学校の昼食については、家庭からの弁当を基本としつつ、各個人が希望するときだけ弁当を購入できるランチサービスを全校で実施しているところである。

しかしながら、保護者の経済的負担等の軽減、地産・地消、食育、栄養バランスなどの点において学校給食の意義は大きいことから、学校給食の持つ利点を十分に考慮し、弁当との選択制や弁当配達方式であるデリバリー方式の採用など、本市の実情に合わせて中学校での完全給食の導入を図るべきである。

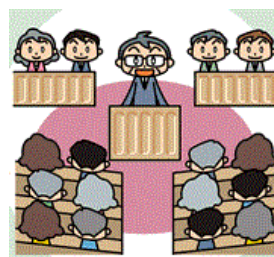
よって、本市議会は、本市において中学校での完全給食が早期に実現されるよう強く求めるものである。

以上、決議する。

平成23年3月16日

川崎市議会

- その後も、市議会では、頻繁に取り上げ、議論を重ねました。また、平成25年5月に川崎市PTA連絡協議会から中学校完全給食の早期実現要望の陳情が、2万人を超える署名をもって市議会議長宛に提出されましたが、この陳情を審査した市議会の委員会では、上記の決議を踏まえて実現に向けた議論を進めるよう当局に促してきました。



中学校完全給食の導入の決定

市議会での議論や保護者等の要望を受けて、教育委員会会議においても、中学校の昼食のあり方については、しっかり議論が必要であるとされ、中学校完全給食の調査研究が本格的に進められていきました。その後、平成25年10月の川崎市長選挙によって中学校完全給食の実施を公約とした福田紀彦氏が市長となり、また、教育委員会会議においても議論が重ねられ、同年11月26日に、早期に中学校給食を実施する旨を含む「川崎市立中学校給食の基本方針」が決定されました。

<その後の議会での審議経過>

【平成25年第4回定例会（12月）】

質問

市長は、さきの市長選挙において中学校給食をスタートし、民間事業者による給食センター方式で行うと約束しましたが、何故、中学校給食の導入が必要だと考えたのですか。

答弁

中学校給食については、子育て世代の働き方の多様化などにより、子育て環境の整備の視点においても大きな効果があると考えています。また、これからの川崎を担う中学生を食育の観点から、栄養のバランスに優れた給食制度でサポートしていきたいと考えています。平成23年3月に市議会において中学校完全給食の早期実現を求める決議が全会一致で可決されたことは市民の総意として受けとめており、市民のニーズも高いものと認識していますので、一刻も早い導入を目指します。

【平成27年第4回定例会（10月）】

議案

議案第132号（仮称）川崎市南部学校給食センター整備等事業の契約の締結について

（仮称）川崎市南部学校給食センターの設計及び建設、開業準備、維持管理、運営に関する業務の契約を締結するに当たり、議会の議決を求めたもの。



この議案を賛成多数で可決しましたが、その際「地産地消を通じて食育の推進を図り、地域経済の活性化に資する」など7項目の附帯決議[※]も併せて可決しました。

※ 「附帯決議」とは、議決に当たって、対象案件について付随的に付けられる意見又は要望の決議のこと。この時に可決された7項目の内容は、次のとおりです。

- 1 子どもたちに安全で安心なおいしい中学校給食を提供するとともに、地産地消を通じて食育の推進を図り、地域経済の活性化に資するよう、市として責任を持って事業を円滑に推進すること。
- 2 中学校完全給食を実施することによる後年度負担について適切に対応するとともに、事業実施に伴い教育施策を始め他の行政サービス・事業の質が低下しないよう、減債基金に頼らず将来を見据えた適切な財政計画に基づく健全かつ持続可能な市政運営を行うこと。
- 3 災害発生時に市民への炊き出しを提供するなど、給食センターを有効に活用し、学校給食だけでなく広く市民に利益が還元できるような事業についても検討するとともに、必要に応じて地域に貢献できる施設として位置付けるなど、事業者と協議・調整を行うこと。
- 4 安定的に中学校給食を提供するために、適正かつ効率的な事業スキームに基づき、各給食センターでの不測の事態に対応できるよう、3給食センターにおける相互連携の仕組みを構築するなど、リスク管理の徹底を図ること。
- 5 市は、選定事業者（SPC）に対し、日常・定期・随時のモニタリング等を通じて、適切な指導を確実に実施するとともに、適宜モニタリングの結果を議会へ報告すること。
- 6 将来想定される大規模修繕については、経年変化による劣化への対応だけでなく社会的変化に対応し、事業費を含む計画を策定すること。
- 7 今後、PFI事業を活用するに当たり、地域経済に資する民間事業者の参入の仕組みを構築すること。

取り組みとしては・・・

平成29年9月4日に南部学校給食センターが稼働し、22校で完全給食が始まりました。施設の建設・維持管理・運営等に民間ノウハウを活用し、各学校には、二重保温食缶を使用して温かい給食を提供しています。同年12月1日には中部・北部学校給食センター稼働により、市立中学校52校全てで完全給食を実施しています。



【南部学校給食センター外観】



【煮炊き調理室（回転釜）】

【平成28年予算審査特別委員会（3月）】

質問

昨年度に、企業連携献立の提供等ということで、JAさんとか、また、健康に特化した企業のタニタさんとか、連携してはどうかという提案をしましたが、企業等との連携による食育の充実について、どのように取り組まれていますか。

答弁

民間企業等との連携による食育については、昨年度より御提案の企業も含め、民間企業等との地産地消や食を通じた健康づくり等の連携について関係局とともに検討しています。

取り組みとしては・・・

平成29年1月に株式会社タニタと協定を締結し、「健康給食@川崎 プロデュース by TANITA」として、マスコミで話題になったタニタ食堂等で提供されている献立を川崎市の中学校給食用にアレンジして、四半期に一度、平成30年度から全ての中学校で提供することになっています。

また、「健康給食@川崎 プロデュース by TANITA」と連動した食育を、市の栄養士や教職員等が主体となって中学校で進められるよう、教材の開発や、教職員の研修を実施するとともに、平成30年5月から、市内の小中学生と保護者向けに、体組成計や活動量計での計測と調理実習や健康セミナーなどを組み合わせた健康プログラムを実施する予定です。

【平成28年第4回定例会（12月）】

質問

学校給食において地場産、特に市内産を優先的に活用することの意義についての見解を聞かせてください。

答弁

中学校完全給食の導入を機に、生徒が地域で生産された食材を口にすることで地域に関する理解を深め、生産者等に感謝する気持ちを育むことは、食育の取り組みとして大変意義深いものと考えています。供給量や配送方法等の課題があることから、関係局及びJAセレサ川崎との協議の中で解決に向けた取り組みが進められているところです。

取り組みとしては・・・

JA セレサ川崎とも調整を図りながら、市内産野菜の積極的な使用に努めています。なお、南部学校給食センター稼働初日には、市内産のなすを使用した、「かわさきそだち」のなすのミートパスタを提供しました。また、米や牛乳については、県内産（一部他県産とのブレンド）を使用しています。



【市内産のなすを使用したミートパスタ（左上）】



【良質なナスを使用】

平成29年11月 南部学校給食センター A献立			
11月の県内産の食材は、米、牛乳です。 市内産の野菜は、11月22日のポトフの「にんじん」「キャベツ」「大根」、11月27日の「にんじん」です。 (天候の影響により、県内産、市内産食材を使用できない場合があります。)			
20日	白菜のみそ汁 りんご 牛乳★ 848kcal 35.5g	21日	きゅうりのしょうが風味 豆腐と大根のとろみ汁 牛乳★ 819kcal 31.7g
27日	麦ごはん とり肉のたつた揚げ 「かわさきそだち」の 「にんじんしりしり」 青菜ときのこの スープ 牛乳★ 873kcal 39.5g	28日	ハヤシライス 白菜としめじのスープ はっこう乳★ 834kcal 29.3g
22日	麦ごはん 小魚の とり肉 野菜ス 牛乳★ 819kcal 35.1g	29日	麦ごはん 揚げしゅうまい 生揚げのキムチ炒め わかめとコーンのスープ ヨーグルト 牛乳★ 862kcal 33.7g

【市内産野菜を紹介した献立表】

中学校完全給食の実施

- 平成29年 1月11日 自校方式2校、小中合築校方式2校で給食の提供を開始
- 平成29年 9月 4日 南部学校給食センターで22校を対象に給食の提供を開始
- 平成29年12月 1日 中部学校給食センターで14校を対象に、北部学校給食センターで12校を対象に給食の提供を開始（全校実施）